平城京と同笵の軒瓦の調査

－6308Ｊ・Ｒと安芸国分寺軒丸瓦01Ａ・Ｂ－

調査の経緯　広島県東広島市所在の史跡安芸国分寺跡では、広島県教育委員会（以下、教育委員会を教委と表記）、東広島市教委、財団法人東広島市教育文化振興事業団による発掘調査がおこなわれ、特に1999年以降の史跡整備にともなう一連の発掘調査により、豊富な出土資料が蓄積されてきた（財団法人東広島市教育文化振興事業団 1999『史跡安芸国分寺発掘調査報告』など）。

6308Ｒは従来、出土例が少なかったが、2006年以降、奈良市教委埋蔵文化財調査センター（以下、奈良市教委と表記）による平城京跡左京五条四坊十五坪（以下、平城京跡を省略）付近の発掘調査により、16点が出土した。原田が類例調査をする中で、6308Ｊ・Ｒと類似した瓦が安芸国分寺跡から出土していることに気づき、2010年６月14日に原田、清野が奈良市教委の中井公氏とともに安芸国分寺跡調査事務所で現物照合をおこなった。その成果の一部はすでに公表されている（奈良市教委 2010『平城の甍―平城京出土瓦展―』）。さらに清野は2011年２月18日に、東広島市出土文化財管理センターで補足調査をおこなった。以下、これらの結果を報告する。

6308Ｊと軒丸瓦01Ａ　6308Ｊは、左京二条五坊北郊から３点（奈文研編 1970『公立学校共済組合奈良宿泊所建設予定地発掘調査報告書―平城京左京二条五坊北郊の調査―』、奈良市教委1984「平城京左京二条五坊北郊の調査」『奈良市埋蔵文化財調査報告書昭和58年度』）、左京二条二坊十一坪から１点（『年報1997－Ⅲ』）出土している。瓦当裏面に横ナデ、丸瓦部との接合部には縦ナデをほどこすものと、縦ナデツケおよび縦ヘラケズリをほどこすものがある。軟質で黒褐色のものと、硬質で灰褐色のものがある。胎土は密で、直径１㎜以下の砂粒のほか、直径２～５㎜程度のレキを少量含む（図67－1・2）。

安芸国分寺軒丸瓦01Ａ型式（以下、軒丸瓦01Ａと表記。01Ｂも同様）は、金堂・塔・講堂跡などから多数出土し、軒丸瓦01Ｂとともに国分寺創建期の所要瓦とされる（東広島市教育委員会 2003『国分寺造営の謎を探る―安芸国分寺出土木簡は語る―』）。瓦当裏面から丸瓦部との接合部にかけて縦ナデをほどこすものと、瓦当裏面に横ないし斜めヘラケズリ、丸瓦部との接合部に横ケズリないし横ナデをほどこすものがある。丸瓦部広端の凸面側を斜めに切り落として加工し、丸瓦部凹凸面の広端寄りと広端面に刻み目を入れるものがある。軟質で白褐色のものと、硬質で暗灰色のものがある。胎土は密で、直径１㎜以下の砂粒、直径５㎜以下のレキを少量含む（図67－3・4）。

軒丸瓦01Ａは6308Ｊに見られる笵傷が一致するほか、6308Ｊにはない笵傷が認められること、文様が不明瞭になったり、木目が浮き出した部分があることを確認した（図68－1）。また、6308Ｊは中房圏線をもたないが、軒丸瓦01Ａは突線で表現された中房圏線を巡らす。

6308Ｒと軒丸瓦01Ｂ　6308Ｒは、左京四条四坊十四坪東側の東四坊大路西側溝から１点（奈良市教委 1989「平城京東四坊大路・左京四条四坊十四坪の調査」『奈良市埋蔵文化財調査概報昭和63年度』）、左京五条四坊十五坪から15点、その西側の坊間東小路西側溝から１点（奈良市教委 2010「左京五条四坊十五坪・東四坊大路の調査」『奈良市埋蔵文化財調査年報平成19年度』、奈良市教委 2011「左京五条四坊十坪・坊間東小路の調査」『奈良市埋蔵文化財調査年報平成20年度』）出土している。瓦当裏面に横ケズリまたは横ナデをほどこし、丸瓦部との接合部に横ナデをほどこす。軟質で明褐色のものと、硬質で白灰色のものがある。胎土は密で、直径１㎜以下の砂粒を少量含む（図67－5）。

軒丸瓦01Ｂは、金堂跡周辺などから出土している。瓦当裏面、丸瓦部との接合部に横ナデをほどこす。丸瓦部広端の凸面側を斜めに切り落として加工する。丸瓦部には刻み目をほどこすものがあると報告されている（財団法人東広島市教育文化振興事業団 2001『史跡安芸国分寺発掘調査報告Ⅲ』）。やや軟質で明灰褐色のものと、硬質で灰褐色のものがある。胎土は密で、直径１㎜以下の砂粒、直径５㎜以下のレキを少量含む（図67－6）。

軒丸瓦01Ｂは、6308Ｒに見られる笵傷が一致するほか、6308Ｒより木目が浮き出した部分があることを確認した（図68－2）。また、6308Ｒは中房圏線をもたないが、軒丸瓦01Ｂは突線で表現された中房圏線を巡らす。

まとめ　以上の調査結果から、軒丸瓦01Ａは6308Ｊと、軒丸瓦01Ｂは6308Ｒとそれぞれ同笵であること、笵傷進行や中房圏線の彫り加えから、軒丸瓦01Ａ・01Ｂは平城京6308Ｊ・Ｒより後出するものであることがあきらかとなった。そして、製作技法や胎土、色調等が異なることから、製品の移動ではなく、笵が平城から安芸へ移動し、

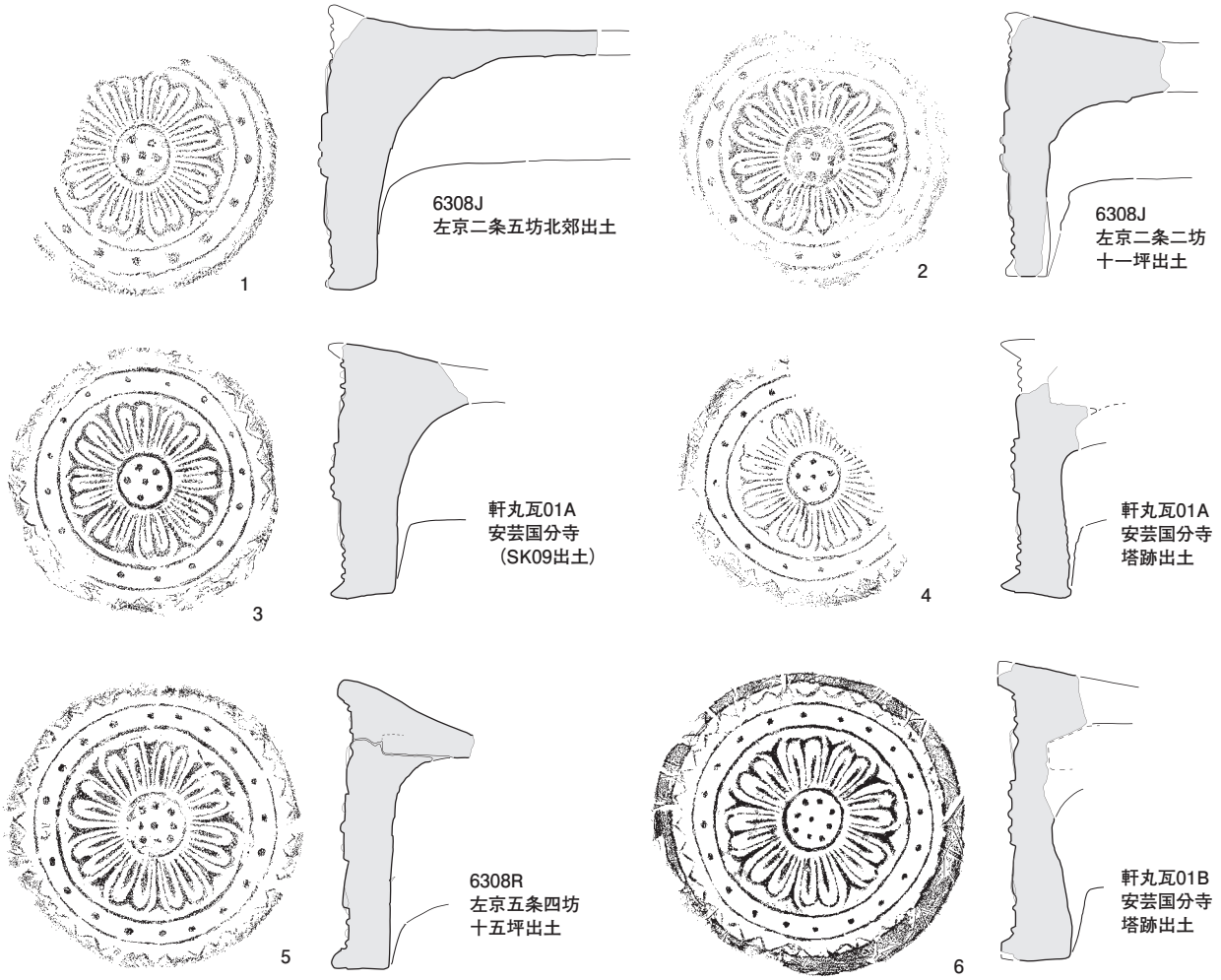

図67　平城京出土6308Ｊ・Ｒと安芸国分寺出土軒丸瓦01Ａ・Ｂ　1：4

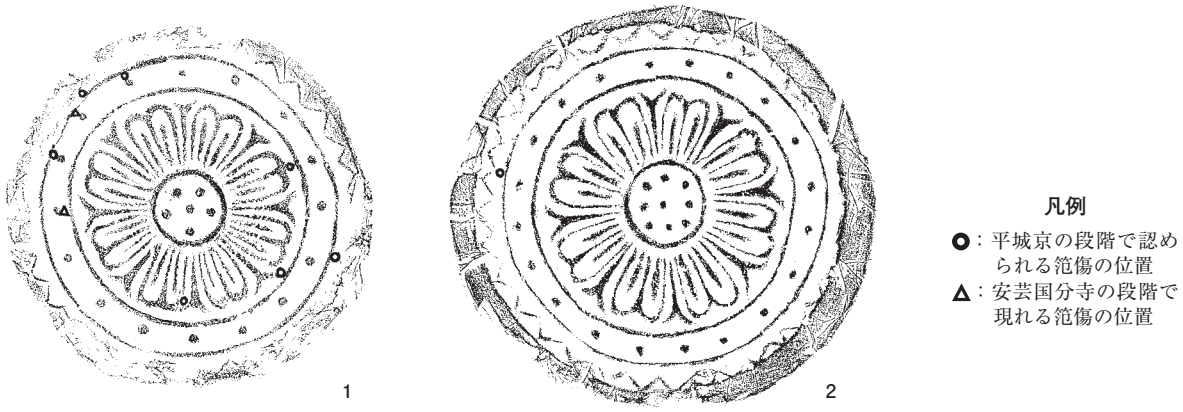

図68　6308Ｊ・Ｒの笵傷進行（1：6308J・軒丸瓦01Aの笵傷位置、2：6308R・軒丸瓦01Bの笵傷位置）　1：3

瓦工人の移動はともなわなかったと考えられる。また、笵は安芸から平城に返却されなかった可能性が高い。

安芸国分寺出土資料の調査にあたっては、東広島市教育委員会の妹尾周三氏、石井隆博氏、中山学氏にお世話になった。末筆ながら深甚の謝意を表したい。

（原田憲二郎／奈良市埋蔵文化財調査センター・清野孝之）